

コハクチョウ



大山を背に採餌するコハクチョウ
境にて

(撮影：桐原佳介)

中海、宍道湖周辺は、コハクチョウの西日本最大の集団越冬地です。コハクチョウが越冬するためには、ねぐらとなる広大な湿地と、餌場となる広大な水田地帯が揃っていることが必要なので、国内でも越冬地は限られています。南部町周辺では、隣接している島根県安来市の水田地帯が、コハクチョウが多く集まることで有名です。

当初、私と主人は、南部町内には広い水田地帯が乏しいので、町内でコハクチョウは観察できないだろう、と思っていました。ところが2年前の冬に、29羽のコハクチョウが三崎地区の田んぼで二番穂をついばんでいるのを見つけました。思いがけない光景に私たちは喜びましたが、この近くに白鳥たちが夜を過ごせる環境があったらどうか、と疑問に思いました。

やがて夕方になり、白鳥たちは食事を終えて北西方向へ飛び去りました。北西方向には、水鳥公園があります。そこで、主人はすぐに水鳥公園に電話をして、「今、南部町から30羽くらい白鳥がそっちに向かって飛んで行ったので、東

から白鳥の群れが来るか注意しておいてもらえませんか」と伝えました。そして8分後、水鳥公園から連絡が来ました。「29羽東から来て舞い降りましたよ!」。それを聞いた私たちは感激しました。方向と数と時間から、私たちが見送ったコハクチョウの群れが、水鳥公園に舞い降りたことはほぼ間違いありません。南部町内でコハクチョウが観察できたこと、そのねぐらが分かったことは、とても有意義でした。三崎地区と水鳥公園との距離はおよそ9 kmありますが、幸いにも三崎地区の水田地帯は、水鳥公園をねぐらとしているコハクチョウたちに通勤圏内と認められているようです。

小規模ではありますが、南部町にもコハクチョウの餌場があることはとても貴重です。境地区や三崎地区には、今年も白鳥が来てくれるという話を聞きました。観察をする際には、脅かさないように遠くからそっと見守ってあげましょう。

自然観察指導員 桐原真希